

学外連携プロジェクト:教育

浸水深サインのデザイン

工学部都市基盤デザイン工学科(流域クラブ)×福大・渡辺亮一研究室×樋井川流域治水市民会議×鳥飼校区自治協議会 担当: 山下三平



左上から反時計回りに、デザインワークショップ、その発表、サイン最終案、設置調査

プロジェクト概要

平成21年7月に福岡市都心部を流れる樋井川が氾濫しました。このような都市型水害には、地域・流域全体で、みんなが参加できる対策をとらなければなりません。たとえば川を深くしたり、ポンプ排水を整備したりするだけでなく、降った雨水を各家庭で貯めたり、浸み込ませたり、危険なときに人が気づきやすくしたりすることをぜんぶ組み合わせることで、これを「流域治水」とよびます。本プロジェクトは「人に危険を気づいてもらう」ために、洪水の実績をサインとして示すこと、そのためにできるだけデザイン性を高めて都市景観にも配慮することをめざしました。

プロジェクトの特徴や効果

浸水の実績を多くの人に知ってもらうことは、自助に役立ちます。サインは目立つ方がいいのですが、ヘタをすれば都市景観を損ないます。そこでデザインにこだわりました。いっぽう、市民共働による流域治水を効果的に行うには、地元住民の意見の反映が不可欠です。そこで地元住民と学生によるデザインワークショップを重ねました。

学生・地域の反応

学生は公共デザインの実際に関わることで、実務のむずかしさと楽しさを学びました。地域の人たちは、これまで必要性を感じながらも実現できなかったことが実現できて、このプロジェクトにおおいに感謝しています。さらに広い地域への普及が期待されます。

備考など

本活動は、(社)福岡県建築士会、福岡・まちづくり活動支援センターより、『防災まちづくりの活動及び調査研究』として助成金をいただき実施しました。また工学部ものづくり委員会の支援も受けています。